



5 月 号

平成 31 年 5 月 25 日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

桜花爛漫・飛翔若鷹

ひとり歩きのできる子
～つながる力を育む～

検索 庄川まちづくり協議会

「ふるさと庄川」が、広がる‘まち’

校長 水口 悟

蚕起きて桑を食う(小満 初侯 かいこ おきて くわをくう)

蚕が、桑の葉をいっぱい食べて育つころ。美しい絹糸となる繭を、小さな体で紡のです。(新暦では、およそ五月二十一日～五月二十五日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

◇ ひとり歩き・ひとり立ち できる子の ‘愛唱歌’

今年度4月に行われた‘まちづくり協議会の総会’にて、子どもたちの手によってつくられた歌「ふるさと庄川」が、庄川町の愛唱歌(庄川SONG)として認定されました。現在の中学2年生が、6年生の時に当時の担任(一川宗弘教諭)と音楽専科教員(役田まり子教諭)とで、作詞作曲した歌です。

当時、卒業式までは在校生にも職員にもシークレットとして取り組み練習し、当日、初めて会場に参加した人たち全員に披露した。8名の子どもたちは、自らの力でつくり上げた「ふるさと庄川」を在校生・職員・保護者・来賓の方々の前で、とても清々しく披露し巣立って行きました。さらに、中学校の入学式においても、見事三番まで歌いきり新たな生活をスタートさせました。8名の子どもたちの合唱は、ふるさとへの温かく・深く・未来に向けた強い願いとなり、式場を包み込みました。子どもたちの「ふるさと庄川」を思う感性や感受性に圧倒されました。式が終了した後、地域の方が「是非とも、この歌を地域の方々が口ずさめるようにしたい。」と話されました。

元号が令和となった今、毎朝、校舎の中には子どもたちが歌う「ふるさと庄川」が響いています。改めて、美しいメロディーの一つ一つを思い描いてみれば、すてきなふるさとの風景や人々の生活が浮かんできます。それは、白山であり獅子舞であり笑顔であり庄川であり庄川桜であり歴史であり歌声であり夢と希望であり絆であり……。

教育は素晴らしい、子どもの成長は素晴らしい、一貫教育は素晴らしい、教師の仕事は素晴らしい、ふるさと庄川は素晴らしい。子どもたちがつくった「ふるさと庄川」の歌を、地域の方々が口ずさみ広がる情景を想像すると、元気が湧き上がり、ますます夢が広がります。



◇ ひとり歩きできる ‘新1年生’ へ

13日に、高山市教育委員会みなさんの学校訪問がありました。その中で、「1年生13名の元気と集中力ある姿」を褒めて頂きました。大変、嬉しいことです。

昨年度、年長・年中さんを中心に1年間を通して、何度も何度も小学校に連れてきて頂いた保育園の先生方の努力が、この姿に現れているのだと説明をしました。小学校の校門に入り、職員室に向かって丁寧に挨拶をする園児たち。運動場の奥にある遊具に向かって、全力疾走する園児たち。体育館で運動する小学生を憧れの眼差しで、じっと見つめている園児たち。公表会では、多目的室にて伸び伸びと英語の活動をする園児たち。

褒めて頂いた内容を西野園長さんに伝えると、「早速、保育士のみなさんに伝えます。そして、今日は保護者会がありますので保護者のみなさんにも伝えます。」と喜ばれました。

まだまだ入学してきて間もない1年生ですが、小学校の校舎に、学習・生活に早くから慣れ、伸び伸びと生活をしています。全校集会にも、早くも自ら手を挙げて発表する姿もあり、とても積極的です。私は、保育園の時に、肌で感じた小学校の校舎や運動場、そして、目に焼き付いているお兄さんやお姉さんの憧れの姿が、今の1年生の元気や集中力につながっているのだと思います。

